

第十二週

魔法の泉

靴屋の出世

何れもイタリー童話。イタリー童話で内容の面白いのは、かなり筋が複雑なので、年少組には使はれなかつた。そろ／＼幼児も、簡単な面白さや、語音の弾力性なぎだけでは満足してゐない。説明の出来ない不思議な力なきに驚

観 察

第九週

金魚屋、金魚は年少組参照。

金魚藻

金魚を見乍ら、金魚鉢に入れてある植物について同時に観察させる。土に生えてゐる草まぢがふ處を注意する。

ぼうふら

金魚にやる爲に水溜りからすくつて來たぼうふらが又きても面白い観察の材料である。形、動き、それが變態の順

異の目を瞪る。靴屋の出世では、お化けが出て來る。けれども年長組になつたさいふほこりのもみに、お化けなんかさいふ氣で却つて面白がる。この靴屋が誠に大膽で、お化けが多勢出て來ても一向平氣で、お化けの方が、その威力に敗けてしまふさいふ筋は、話の性質そのものがよく出來てゐるので話してゐても愉快である。

序、時期によつてちがつてゐて面白い。

めだか

月曜日の朝一人の男兒が昨日郊外に行つて掬つて來たさいふんに入れてもつて來ためだかをさつそく金魚鉢に入れてやる。小さくて口の尖つて上を向いた目の大きいおさけた魚は一ぺんに保育室の籠兒になる。同じお魚でも金魚さずる分違ふ事はよく判る。そこで比較観察させる。同じ所を言はせて見るのも面白いこゝである。目高でも緋目高白目

高等は觀賞用變種である。

第十週

あぢさる

梅雨の頃にふさわしいこの花は幼稚園のお庭の隅に一本でもあるさよい。昔の人はこの花の色は七度かはる言つたが青白いさき始めの色から注意して見るにその變化が面白い。一つ一つの花の形よりも全體として色を樂しむ見方をするのでよいであらう。

蝶、蛾

この頃の蟲の王座を占める蝶はこども達にも實に親しみ深いものである。それでも明瞭とした形をみてゐるこどもも、少い。幼稚園に飛んでくる蝶の種類は大體次のやうなものであらう。

もんしろてふ、きてふ、くろあげは、すぢぐるてふ、き

あげは、しじみてふ、もんきてふ、あげはてふ、からす

あげは

蝶の觀察はさうかするにまずつゝ先走つて理科教授になり

易い第一のものかも知れない。これを吳々も注意し度い。

殊更に標本箱に入つた蝶なご見せないこどもであるがそれがあればみせたつていゝ、その場合は額の繪の様にみせるのである。幼児にむかつてのこの種の觀察はあくまで動きをみるこどもである。飛んでゐる蝶、止つてゐる蝶、蜜を吸つてゐる蝶、それでも靜に注意してみるこどもである。つかまへたら一度はみんな注意して觸角、足、その數、體の様子、翅、その色、數、そして翅をいぢるさつく粉、即鱗片（これは口へ入れぬ様注意するこども等次々にみやう。

毛蟲を飼つたらまゆをつくつた、そして幾日かたつた或日蛾がまゆから出て來たこどもで毛蟲からつゞいて觀察させて行く。出て來るものが何であるかと思つてゐたら毛蟲からこんなものになつたさいふ驚きがあらう。蝶ではないこども（蝶でない場合）は簡單に注意すべきでそれは止り方にさめて置く位でいゝと思はれる。これも決して理科教授にならない様、こうしたものに細く注意をむけ驚異を感じるやうにさいふ氣持でしむけて行きたい。

小鳥の孵化

卵をあたゝめてゐるのをみつめて、毎日小鳥小屋を見舞

つてゐたのがかへつた事を知つた日子供達の喜びさいはうか、ふしぎさの多分なうれしさは想像以上であらう。まだ目もあかず羽毛もないうごめくものが母鳥のおなかの下にあるのを伸び上つたりしやがんだりしてみてゐるのはたゞそのみでいゝのであらう。たゞちつともそれを知らないでゐる子供のない様にここにこの時分相當武勇傳をもつてゐる男兒なごまは一しよにみたいものである。そして日毎に目があき羽毛がはえるのを、母鳥がごうやつて育てるか食物を與へる様子なご靜にみたい。雀の子の唱歌がこゝで一そうやさしく思ひ出される。そしていよく巢立つ時は又新な喜びで、成長した小鳥を小鳥のやうなごまも達が見るこゝである。

第十一週

かみきりむしその他

蟲の出盛りになる。蝶や蜂やあぶや、その他の昆蟲類が花壇にもお山にも一ぱいに初夏を謳歌してゐる。

それ等がどんな蟲であり、何さいふ名だかを知らん顔して過してしまへば何でもないこゝであり、面倒でもないで

あらう。けれど一度よくみ、調べてみたらさても面白くて黙過するのがかへつて苦痛になる。子供達はみたく、知りたい。先に立つてこれは何のむしでこんな色だ、こんなものがある、強さうな足だな、何でもかめさうな大きな口だ、おや、この眼は不思議、さいふ様に子供の興味を指示してやり度い。つかまへた蟲はこうしてみる事によつてかへつていぢめられもしないであらう、又若し不都合な蟲の場合には一そう好いであらう。

藤の實

先頃あんなにきれいに咲いてゐた藤がいつか散つて緑の濃いかげをつくつてゐる藤棚の下に行つてみた時、なつてゐる、實が花をみた時舟のやうな形だつた所がこの實になつたこゝはごまも達はおぼえてはゐないかも知れない。こゝに角花の咲いたあまに出來た事は知つてゐてもよいと思ふが、まだく大きくなるこゝ、大きくなつたらさつてもいいけれど今はさらないこゝ、毎日のように、雨のふる度に、大きくなるのをみてゐませうさいふこゝを話してこゝした實の成長をも楽しむのもよいこゝであらう。

護國寺

幼稚園に一番近い、森のある、何だか行つてみたい所である。本校からは緑色に錆びた大きな屋根がみえるし、植物園ももちがひ、動物園も、原っぱももちがひつて何だかみたい所である。年長組にもなればこの位の距離なら行つてみたらよい。園外保育である。園外保育としての諸注意やねらひ所なき事新しくのべる必要はないと思ふ。唯ここはお寺であること、國寶もなつてゐる古い建物があること

手
技

第九週

自由畫 一回

保育室の黒板に町の背景護國寺の森をかゝせる

ぬりえ アヤメ 一回

實物があれば保育室におき、實物がなければぬつたものを見せる

製作 本校々舎 三回

こ、尊い方々の御墓所のあること。それを拜しそれをみなぎすること、子供達に一種の宗教的な言つては大げさであるがそんな深嚴な感情を起させる所として一度は行つてみたい所である。

第十二週

年少組参照

ボール紙で本校々舎をつくる、箱の家の形につくる、三階建に窓をつけ、ドアなきもつける。窓はくりぬいてもよいし、又別の色の紙をはりつけてもよい。

第十週

自由畫 テーブル掛へかく

デパートなきの包紙に大きく周圍に模様をかゝせる。大なるものに畫く調子をわからせてからテーブル掛に